International Exchange

ラハティ応用科学大学との新たな交流に向けて

富山大学芸術文化学部講師　ペルトネン純子

1．ラハティ応用科学大学について

ラハティ応用科学大学（Lahti University of Applied Sciences）のあるラハティ市は、フィンランド共和国の首都ヘルシンキから北へ約100kmに位置し、人口は約10万人で、主たる産業としてビールや衣料製造などがある。

ラハティ応用科学大学は、Business Studies、Tourism and Hospitality、Design and Fine Arts、Music and Drama、Social and Health Care、Technologyという６つの研究分野で構成されている。

そして芸術文化学部の交流するInstitute of Design and Fine Artsは、Design、Media、Visual communication and Fine artsという４つの研究分野で構成されている。また、Design分野における学生数は正規学生約700名と交換留学生約40名で、Fine arts分野における学生数は正規学生約60名と交換留学生約４名となっている。

ラハティ応用科学大学校舎

2．友好協定締結の経緯と交流の軌跡

本学とラハティ応用科学大学は、友好協力協定を締結している。その協定に基づき、本学部と同大学デザイン学部における学生及び教員の交流と、学生作品の相互交流展に関する覚書を交わしている。その経緯と交流の概要については次の通りである。

平成７（1995）年、フィンランドと日本の修交75周年目、北陸で初めてフィンランド協会（高岡フィンランド協会）が設立される。その際、高岡市立美術館において「フィンランドの歩み展」が開催された。そして平成９（1997）年９月、フィンランドのラハティ・ポリテクニク（現ラハティ応用科学大学）と、富山県出材協会との企画による「デザインとやまinフィンランド」をラハティ市で開催。さらに平成９（1997）年11月、高岡短期大学（現富山大学）とラハティ・ポリテクニクとの間で「友好協力関係に関する協定」が締結された。その翌年の平成10年（1998）年６月、ラハティ・ポリテクニクのデザイン学部学生作品展が高岡短期大学内で開催され、約１千人の来場者で賑わった。

平成10年から学生の交流が始まり、平成14年から教員の交流も始まった。また学生作品の相互交流展は平成14年から始まり、それぞれの交流は現在も続いている。

表１　交流実績数（学生）

年度	派遣（人）	受入（人）	年度	派遣（人）	受入（人）
H10	0	2	H18	2	2
H11	2	2	H19	2	1
H12	2	0	H20	2	1
H13	2	1	H21	2	1
H14	3	3	H22	0	0
H15	4	2	H23	3	2
H16	2	1	H24	0	1
H17	3	4	H25	1	2

表２　交流実績数（教員）

年度	派遣（人）	受入（人）	年度	派遣（人）	受入（人）
H14	2	0	H20	0	0
H15	1	3	H21	0	0
H16	0	0	H22	5	0
H17	4	0	H23	0	0
H18	0	0	H24	0	2
H19	0	2	H25	0	2

表３　学生作品の相互交流展開催実績

年	期間	開催場所
H14（2002）	9月19日～9月21日（3日間） 9月25日～10月8日（14日間）	シベリウスホール（ラハティ市） ラハティ・ポリテクニク
H15（2003）	12月2日～12月15日（14日間）	高岡短期大学
H17（2005）	9月9日～9月22日（14日間）	ラハティ・ポリテクニク
H20（2008）	1月21日～1月29日（9日間）	富山大学高岡キャンパス
H22（2010）	11月9日～11月18日（10日間）	ラハティ応用科学大学
H25（2013）	1月21日～1月29日（9日間）	富山大学高岡キャンパス

３．新たな交流に向けての検討

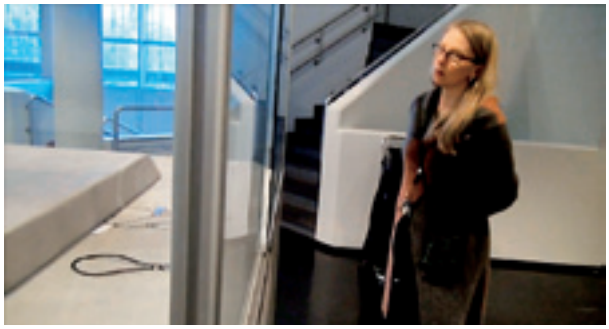
平成10年から始まった学生の交流は、両大学の学生に外国において学習する機会を提供し、貴重な国際経験を得る機会を与え続けている。しかし両大学の留学希望者は増加傾向にない。また両大学の教員の交流は、実績数の少なさ以上に、教育や研究につながるような交流になり得ていない。さらに学生作品の相互交流展は、両大学における学生及び教員の興味や関心を促す役割を果たせなくなってきている。

このような状況を踏まえ、富山大学芸術文化学部学部長武山良三とラハティ応用科学大学Principal Lecturer Ari Känkänenとの検討が行われた。そしてこれまで両大学間で行ってこなかった展覧会や交流企画などを検討することになった。これを受けラハティ・ポリテクニクに研究員として滞在経験のあるペルトネンが平成26年３月ラハティ応用科学大学を訪問し、１．両大学の授業において共通の課題に取り組み、２．両大学の成果を一緒に発表する展覧会の実施、等についてラハティ応用科学大学のカリキュラムコーディネータや複数の教員等と意見交換を行った。その結果、提案した１．や２．について実施する方向で話し合いを始めることを確認した。

また１．や２．の実施にあたっては、芸術文化学部で既に実施されている「同一課題による国際共同授業の試み」を参考にする。この試みはスウェーデンにあるカペラゴーデン美術工芸学校と繋がりの深い小松研二教授の主導のもと、カペラゴーデン美術工芸学校の教員や芸術文化学部教員の渡邉雅志准教授とともに、両校の学生が共通の課題（トレーの制作）に取り組み、両校の学内での展示発表を行っている[1]。

４．今後の計画について

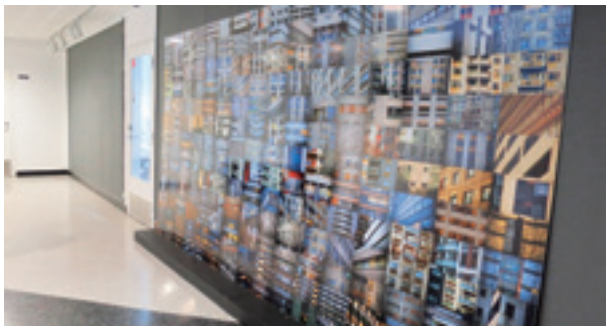
今年度は、これまでの「学生作品の相互交流展」開催に向けて準備を行う。今年度は芸術文化学部の学生作品をラハティ応用科学大学内で展示予定のため、これに向けた調整を行っている。また展示にあたってラハティ応用科学大学に訪問する際、１．や２．の実施に向けた両大学の授業構成や授業実施方法等に関する資料をもとに具体的な内容を検討する予定である。



ラハティ応用科学大学のカリキュラム コーディネーター

共通の授業課題実施に関する意見交換を行った教員

校内に展示中の学生作品



校内に展示中の学生作品

参考文献

1　小松研二、渡邉雅志、「同一課題による国際共同授業の試み－カペラゴーデン美術工芸学校の学生作品の背景にあるもの－」、富山大学芸術文化学部紀要第２巻、2007年、p.50-58。